

『埼玉県西部地域まちづくり協議会』（ダイアプラン）を構成する4市（所沢市・飯能市・狭山市・入間市 以下＜ダイア4市＞）では、政策形成研修を実施しています。各市の職員が市域に限定しない広い視野に立ち、自治体行政のあるべき姿について議論や研究を深めることを目的に平成9年度から継続的に行っています。この論文は平成29年度の研究内容となります。

## 所沢・飯能・狭山・入間 埼玉県西部地域まちづくり協議会における政策形成研修

平成29年度 研修生（所属は当時のもの）

### A班

所沢市 猪合 拓馬（青少年課）  
飯能市 長谷川 裕子（環境緑水課）  
狭山市 豊泉はる香（市民税課）  
入間市 松本 幸文（福祉総務課）

### B班

加藤 彩未（選挙管理委員会事務局）  
井戸入大輝（原市場地区行政センター）  
内藤 洋平（健康づくり支援課）  
市橋 明子（高倉公民館）



研修生とダイア4市の市長とアドバイザーの皆様

## 1 研修の概要

この研修は平成9年度から毎年ダイア4市の職員が集まり、年度ごとのテーマに沿った政策形成研修を行っています。それぞれの市域に限定しない広い視野に立ち、共通の認識を持って自治体行政のあるべき姿について議論や研究を深めています。研修では政策形成講師のほか、人事院公務員研修所、埼玉県西部地域振興センターの協力をいただき、進めています。

この研修がきっかけとなり、その後の情報共有や各市事業の連携、協力等、職員同士の強いつながりが形成できる有意義な研修となっています。

## 2 対象職員

主事・主任級職員8名（各市男女1名ずつ）

## 3 研修期間

平成29年8月～平成30年3月（全9日間）

## 平成29年度の政策テーマ

『元気・イキイキ！ダイア健康増進プロジェクト  
～健康長寿地域を目指して～』

### A班

## 『ダイアサイクルビズプロジェクト』

### 1 はじめに

少子・高齢化が進むわが国では、65歳以上の高齢者一人を支える18歳から64歳までの生産年齢者数は平成22年（2010年）の約2.8人から平成52年（2040年）には約1.5人と、ほぼ半減することが予想され、今後、これまでにどの国も経験したことのない超高齢社会を迎えることとなります。さらに、生活の質に多くの関心が寄せられ、一人ひとりが心豊かに生き生きと過ごすためには、単に長寿であるだけでなく、「いかに健康で過ごすことのできる期間を長く保つか」、つまり健康寿命の延伸と、それによる健康長寿社会の実現が最重要課題の一つであ

と言えます。また健康増進法では、国民保健の向上を図ることを目的とし、国及び地方公共団体の責務が定められています。このような背景から、地方自治体による健康長寿地域社会の創出は必要不可欠となっています。

それでは「健康長寿地域」とは、どのような地域でしょうか。私たちは、所沢市職員約1,000名にアンケート調査を行いました。その結果、「健康長寿」とは、心身とも健全で、自立した生活をおくり、寿命および健康寿命が長く、大きな病気に罹らない状態である、とと思っている人が多いようでした。よって、「健康長寿地域」とは、このような「理想的な人生を送ることのできる地域づくりに積極的に取り組んでいる地域」と定義しました。理想の健康長寿地域を目指すにあたり、ダイア4市の健康に関する現状分析を行い、理想の状態とのギャップを把握し、課題設定を行い、それに対し具体的な政策案を提案します。

## 2 現状と課題

ダイア4市の健康に関する状況は、どのような状況なのでしょう。

### (1) 健康寿命

平成27年度の埼玉県の健康寿命に関するデータでは、県内63市町村のうち、所沢市の健康寿命は男性4位、女性18位、飯能市男性19位、女性35位、狭山市男性10位、女性13位、入間市男性5位、女性9位と県内ではダイア4市は比較的上位を占めていました。

### (2) 死因

各市の健康意識調査における死因の第1位と第2位はダイア4市とも同じで「悪性新生物(がん)」、「心疾患(高血圧性疾患を除く)」でした。これらの疾病の主な要因は「生活習慣」です。そこで、生活習慣病を予防することが健康長寿社会を目指すうえで重要であると考えられます。

	所沢市	飯能市	狭山市	入間市	埼玉県
第1位	悪性新生物(がん)	悪性新生物(がん)	悪性新生物(がん)	悪性新生物(がん)	悪性新生物(がん)
第2位	心疾患 (高血圧性疾患を除く)	心疾患 (高血圧性疾患を除く)	心疾患 (高血圧性疾患を除く)	心疾患 (高血圧性疾患を除く)	心疾患 (高血圧性疾患を除く)
第3位	肺炎	肺炎	肺炎	肺炎	肺炎

図1：ダイア4市の死因

(出典：埼玉県「平成28年度地域の現状と健康指標」)

### (3) 健康に対する取組・健康意識

ダイア4市の保健担当、国保担当が実施している、市民の意識調査、レセプト及び健診データ等を調査・分析しました。これによると、運動を週2回以上している方が全体で20%以下であることがわかりました。年齢別では、10代から50代に運動不足が多い傾向にあり、60代を超えると、徐々に運動不足の解消がみられました。

### (4) 肥満度

ダイア4市の市民に運動不足の方が多かったため、運動に結びつきの高いBMI値を確認しました。結果、ダイア4市の肥満率は埼玉県全体の肥満率(男性24%、女性14%)に比べ少ないものの、男性22%、女性12%が肥満であることがわかりました。

このような現状から、運動不足による健康への影響を考慮する必要があると考えられました。運動不足の状態が継続すると、どのような状態になるのでしょうか。まず、筋肉、心肺機能が衰え、脳疾患や運動障害に陥りやすくなります。内臓に脂肪が蓄積することにより、高血圧、心機能に疾患が発症することもあるでしょう。また、高齢になるにつれ、骨が弱まり(骨粗しょう症)、ちょっとしたことで骨折になりやすくなります。特に、高齢者は、回復に時間がかかるため、歩行することができずに最悪寝たきりになる場合があります。また、運動不足の影響で免疫力が落ちると、風邪や各種ウィルスに罹りやすくなります。

運動不足により引き起こされる様々な疾患を防ぎ、自分自身で自由に行動ができる未来のためにも、私たちは運動習慣に着目し、生活習慣病を予防する政

策を考えていくことにしました。

### 3 政策目標

#### (1) 政策ターゲットの検討

私たちは、政策を進めるうえで、具体的なターゲットの検討を行いました。ダイア4市の健康に関する調査を考察すると、次のような傾向があることが分かりました。

##### ①BMI

女性のBMI値は、年代間であまり差がないのに対して、男性では30代～50代の肥満率が高いことが分かりました。

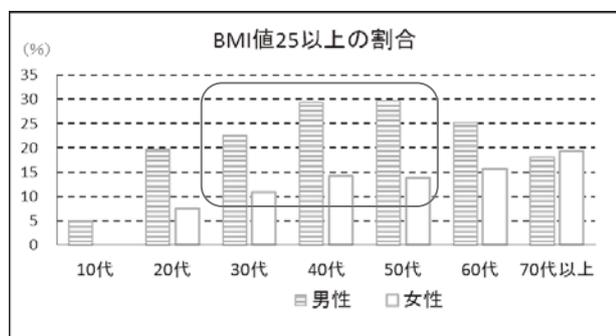


図2：ダイア4市 年代別BMI値25以上の割合

(出典：各市健康に関する計画)

##### ②適正体重

40歳以上の男性は実際の適正体重より重い体重を適正体重であると思っている傾向がありました。この結果から、40歳以上の男性は体調管理の目標設定が適正ではなく、健康に対しての見立てが甘いということが分かりました。

##### ③主観的健康観（運動習慣の設問から）

男女ともに40～59歳の「週2回以上運動する」割合が30～40%であるのに対して「健康だと思う」割合が80%近いことが分かりました。この結果から、男女ともに約40%以上の方が、十分な運動をしていないのにも関わらず、健康上特に問題がないと思っている方がいることとなります。そのため、政策の中に、健康長寿のための適切な運動量を示し伝える必要があります。

##### ④運動開始の意向

女性の20～59歳において「運動に関心があり、今すぐ取り組みたい」割合が高いことが分かりました。これは同年代の男性に対して10%近く高く、運動に関する意欲が男女で異なることが読み取れます。

##### ⑤ウォーキングイベント参加者の傾向

ダイア4市や埼玉県で行った「健康マイレージ」の参加者のデータを分析すると、参加者の大部分は60歳以上であり、40～50代は男性よりも女性の方が、参加者が多いことが分かりました。

これらのことから、60歳以下の男性は女性よりも運動に関する意欲が低く、40歳頃から肥満が多くなる傾向が分かりました。また、埼玉県のデータでは、平成27年より過去9年の男性の健康寿命は女性よりも平均で約3年低くなっています。

そのため、30代、40代から運動習慣をつけ、生活習慣病を予防することを目的とするため、メインターゲットを30～40代の男性とすることとしました。

#### (2) 目標の設定

運動習慣を定着することによって、生活習慣病予備軍を減らす。

### 4 政策背景

今回メインターゲットとした30～40代の男性の多くは、日中仕事をしており、また結婚・子育てなどで自分以外のために費やす時間も多く、ウォーキングをするための時間的、精神的な余裕がない方が多いことが予想されます。そのような多忙な状況であっても、多くの方が毎日行うことの一つに、通勤があります。そこで、私たちは通勤時間の有効活用に着目し、ダイア4市の平成22年国勢調査から、通勤に関するデータを調査・分析しました。

### (1) ダイア4市市民の通勤形態

ダイア4市に在住する人の中で、自宅勤務を除きダイア4市内に通勤している人が約17万人いることが分かりました。そして、通勤手段に運動習慣に値する徒歩、自転車を利用していない人の割合が80%に及ぶことが分かりました。

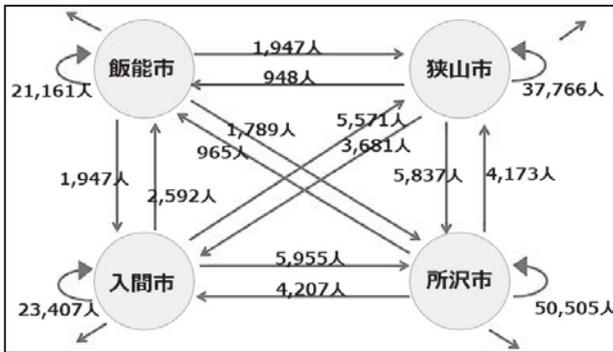


図3：ダイア4市市民の通勤先別人数

(出典：平成22年国勢調査)

### (2) 自転車を活用した健康づくりの運動量の目安

通勤時の運動として、私たちA班は、自転車通勤への切り替えを提案します。一般的に、1日20分以上の有酸素運動を行うことが健康づくりに適しているとされていますが、自転車も同様の効果を得ることができます。自転車を選んだ理由として、①体や膝への負担が少なく運動ができること、②徒歩通勤にくらべ、通勤範囲がひろがること、③ドアツードアの場合、ある程度の距離までは電車と通勤時間があまり変わらないことなどが挙げられます。

### (3) ダイア4市の特徴を生かして

さらに、ダイア4市には工業団地が各市にあり、事業所が多くあることが特徴の一つです。この多くの事業所が従業員の体調に気を配り、会社全体が健康に意識を向けることによって、多くの在勤者の健康増進が見込めます。また従業員がイキイキと働くとともに、地元企業の活性化を期待します。

## 5 政策提案

メインターゲットである30～40代の男性が、

日々の生活環境の中で、無理なく運動習慣を定着できる方法として、私たちA班は、自転車を活用した健康づくり、名付けて「ダイアサイクルビズプロジェクト」を提案します。

ダイアサイクルビズプロジェクトでは、主に通勤時間を活用し、自転車通勤者を増やすことにより、より多くのダイア4市在勤者に運動習慣を定着させるものです。運動習慣の定着は、生活習慣病の予防に非常に効果的ではありますが、普段自動車（電車）通勤している、あまり運動をしていない人が、突然自転車通勤を始める、そして継続することはなかなか難しいと思われます。

そこで、私たちA班は、メインターゲットとしている30～40代の男性が、思わず自転車通勤を始めたいくなる、そして続けたいくなる、気がついたら健康になっている、そんな政策を提案します。

## 6 具体策



図4：ダイアサイクルビズプロジェクト年間予定

### ①参加企業募集・周知

実施年の4～6月に各市において行います。各市5社、1社あたり5～10名の募集とし、最大200名/年の募集を行います。参加条件としては、ダイア4市在勤者であること、通勤は、主に自動車もしくは電車を使用していること等です。

### ②企業説明及び測定会

7～8月に各市において行います。各市1社2時間とし、協力企業へ説明にお伺いします。企業説明では、事業説明、自転車損害保険加入義務化の案内、

測定会を行います。測定は地元企業から特別に拝借した体組成計等を用い、身長、体重、体脂肪などを計測します。

### ③-1 自転車通勤開始

9月～11月の3か月間、参加者による自転車通勤を始めていただきます。自転車通勤を始めるにあたってのデータの蓄積についてはサイクルコンピューターを活用します。参加者全員にサイクルコンピューターを貸与し、日々の活動による走行距離、走行日数を計測しデータとして蓄積していただきます。

### ③-2 ランキングの配信

事業1か月毎に、参加者所有のスマートフォンアプリを活用して、サイクルコンピューターのデータをアップロードします。

200名のデータから、自転車通勤の実施状況や、各個人、各企業のランキングなどを集計し、「サイクルビズ通信」として、各参加者に発送します。

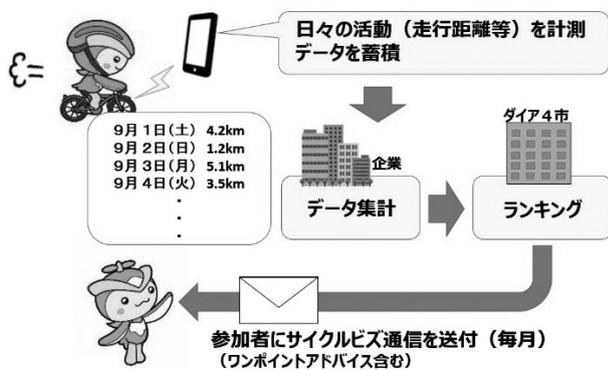


図5：事業実施のイメージ

### ④ 事業実施後の測定会

実施期間後に、事業実施後の健康状態の確認を目的として測定会を行います。測定会には各市の保健師も参加し、測定結果から健康に関するアドバイスをを行い、併せて健康相談会も実施します。

### ⑤ 表彰

測定会を行った後、表彰式を行います。表彰は、個人部門として自転車走行距離のランキングなどの項目を評価し、企業部門として健康優良企業の認定

を行います。個人部門の表彰者には、ダイア4市の特産品を提供します。

## 7 その他の施策

ダイア4市内の企業にお勤めでない方、在宅勤務の方、主婦層などに、自転車への関心を持っていただくために、このサイクルビズプロジェクトの事業実施期間中に、各市の特色を活かしたイベントを開催し、より多くの方に自転車の健康効果を周知します。例えば、入間川河川敷のサイクリングロードを活用したツーリングイベント（狭山市）、西武園競輪場を会場にした自転車体験イベント（所沢市）などを実施します。

## 8 まとめ—事業の効果—

今回の政策提言を通じて、ダイア4市の健康に関するデータや市民の意識調査などの状況を知ることができました。「運動習慣の改善」、「無理なくライフサイクルに運動を取り込む、運動に置き換える」ことを実現できる政策を考える中で、「自転車」というキーワードを導き出しました。

ダイアサイクルビズプロジェクトのポイントは、通勤に運動を取り入れることで、運動不足の方が気付かぬうちに日常に運動習慣を取り入れているところです。

ダイア4市内の企業に通勤する方が、自転車通勤に切り替え、そしてその習慣を続けてもらうことで、無理なく運動習慣を取り入れ、運動不足を解消し、将来的な生活習慣病の予防を促します。また、地元企業が参加することにより、より企業が社員の健康に注目し、健全な社員を育成する土壌づくりが期待できます。さらに、イベントを通じて幅広いダイア4市市民を対象に、楽しく無理なく運動を行うきっかけづくりを提供することができます。

これらのことから、生活習慣病にまつわる様々なリスクを軽減し、将来的な医療費の抑制が見込めます。

以上のことから、ダイアサイクルビズプロジェクトを推進していくことにより、ダイア4市内の企業に在勤している方々を中心に、ダイア4市に在住する方々の運動習慣を定着することによって、生活習慣病予備軍を減らし、この提言が健康長寿地域を形づくる施策となることを期待します。

## B班

### 親子ベジ活クラブ ～野菜で彩るダイアの食卓～

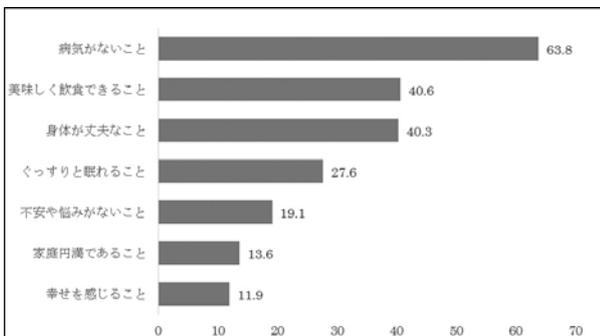
#### 1 現状分析

##### (1) 「健康」とは

###### ①人々の意識

以下は、厚生労働省が平成26年度に実施した「健康意識に関する調査」です。

図6：平成26年度 健康意識に関する調査 (%)



出典：厚生労働省 平成26年度 健康意識に関する調査

多くの方が考えている「健康」の基準は、「病気がない状態」であることが分かります。

また、所沢市職員約1,000名を対象にアンケートを実施したところ、「自身が考える健康長寿がどのような状態をあらわすか」という設問に対し、「介護・介助を受けず、自立している期間が長いこと」という回答が最も多く、「心身ともに健康である期間が長いこと」が続きました。

双方のデータから、「心身ともに健やかな状態」を「健康」と捉える人が多いことが読み取れます。

##### ②平均寿命と健康寿命

日本人の平均寿命は、平成27年には、男性80.79年、女性87.05年と、世界トップクラスの長寿国となっています。また、埼玉県が平成28年度に発表した平均寿命は、男性80.28年、女性86.35年です。この状況下で、注目を集めているのが「健康寿命」です。埼玉県が定義する健康寿命は、65歳に達した県民が、健康で自立した生活を送る期間です。ダイア4市の健康寿命は、概ね埼玉県の平均よりも男女ともに数値が高い傾向にあります。この水準を維持し、さらに平均寿命と健康寿命の差（不健康な期間）を縮小させることにより、本人や家族の生活の質を保ち、医療費等の増大を抑えることが可能であると考えられます。

私たちはこれらの現状と人々の意識を踏まえて、「健康長寿地域」を「本人・家族が心身ともに健やかな状態を持続できる地域」と定義しました。

##### (2) 病気の現状について

###### ①日本人の病気

厚生労働省が3年ごとに行っている「患者調査」によると、平成26年度の主な傷病の全国患者数は、「悪性新生物（がん）」が約1,626千人、「心疾患（高血圧性のものを除く）」が約1,729千人、「高脂血症」が約2,062千人となっています。

###### ②埼玉県とダイア4市の死因

厚生労働省によると、日本人の三大死因は、「悪性新生物（がん）」、「心疾患」、「脳血管疾患」であり、埼玉県全体とダイア4市においても、概ね同様の結果となっています。

###### ③三大生活習慣病

「悪性新生物（がん）」、「心疾患」、「脳血管疾患」は、総称して「三大生活習慣病」と呼ばれています。三大生活習慣病の主な要因は次のとおりです。

図7：三大生活習慣病の主な要因

生活習慣病	疾病（代表例）	発症要因
悪性新生物 (がん)	大腸がん	偏った食生活、運動不足、過度の飲酒、 ストレス
	肺がん	偏った食生活、過度の喫煙、ストレス
心疾患	心筋梗塞	偏った食生活、過度の喫煙
脳血管疾患	脳出血	偏った食生活、運動不足、 過度の喫煙・飲酒
	脳梗塞	偏った食生活、運動不足、 過度の喫煙・飲酒

出典：一般社団法人 日本生活習慣病予防協会ホームページ

以上から、生活習慣病につながる悪い生活習慣を改善するため、偏った食生活、過度な喫煙・飲酒、ストレスの蓄積を解消することが必要だと考えました。

## 2 課題と目標の設定

### 課題設定：食習慣の改善及びストレスの解消

#### (1) 課題設定の背景

ダイア4市では、全国的に有名な狭山茶をはじめ様々な種類の農作物を、年間を通して生産しています。また、ダイア4市の市民意識調査等から、ストレスの蓄積を自覚している市民が多数存在することが分かっています。

#### (2) 野菜の摂取が健康に及ぼす効果

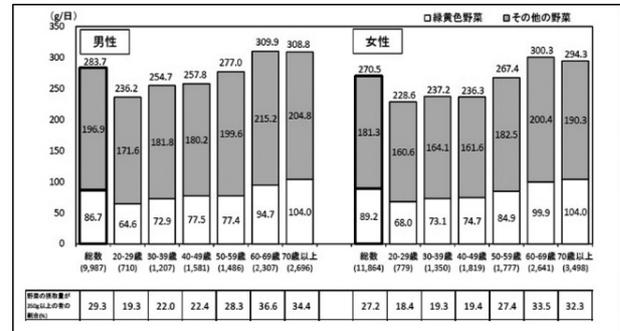
厚生労働省の「健康日本21計画（栄養・食生活）」によると、生活習慣病は栄養・食生活との関連が深いとされています。また、生活習慣病予防と関連のある栄養素としてカリウム、食物繊維、抗酸化ビタミン等をあげており、これらの栄養素を適量摂取するために必要な野菜の摂取量を、1日平均350g以上と定めています。以上のことから、日常的に野菜を1日平均350g以上摂取することで、生活習慣病予防の効果が期待できることが分かります。

#### (3) 1日の野菜摂取量についての現状

野菜摂取量については男女問わず全ての年代にお

いて目標値に達している年代はなく、中でも「20代～40代」は男女ともに他の年代と比べ野菜摂取量が低いことが分かります。

図8：野菜摂取量の平均値  
(20歳以上、性・年齢階級別、全国補正值)



出典：厚生労働省「平成28年国民健康・栄養調査」

#### (4) ダイア4市の食生活・栄養に対する意識

ダイア4市の健康所管課が作成している統計資料から、各市の市民は食生活が偏っている傾向にあり、特に野菜不足であること、さらに、野菜摂取量は男女間・年代間で差が生じていることが分かりました。また、「栄養や食生活の講座に出たい」というニーズもあることから、市民が参加しやすい環境を整えた講座等を実施することで、野菜摂取量を改善できる余地があることが分かりました。

#### (5) ストレス蓄積の危険性

ストレス解消の手段として過食や過度の喫煙・飲酒にはしることなどが考えられます。反対に、ストレスが溜まると拒食気味になり、栄養不足に陥ることもあります。これらはどちらも生活習慣病の原因にあたります。市民の生活習慣の改善と生活の質の向上を図るためには、「ストレスの解消」も必要な要素と考えられます。

### 目標設定

#### 目標1：野菜摂取に対する意識の向上

#### 目標2：ストレスの解消

### 3 政策提言「親子ベジ活クラブ」

#### (1) ダイア4市の資源を活かす

ダイア4市は様々な農作物を生産しているほか、親子で楽しく遊べる環境が多く整っています。

私たちはここに着目し、ダイア4市の農作物や素晴らしいロケーションという資源を活かし、市民が生活習慣病の原因となる項目を楽しみながら自然と改善できる「親子ベジ活クラブ」を提案します。行政の強みである様々な職種の人材活用と公共施設を活用することで、事業の実施にかかる費用を最小限に抑えつつ、健康長寿地域の実現に取り組みます。

#### (2) 子育て世代を意識した施策

市民全体の野菜摂取量の向上を図るには、他の年代と比較して1日の野菜摂取量が少ないというデータが出ている20代～40代の男女を特に意識した施策内容とすることが重要です。また、この年齢層は「子育て世代」が多いことが想定できます。

#### (3) 事業プロモーションの方針

##### ①あなたの「子ども」のために

市民に対して、「健康のため、野菜をとりましょう」といくら啓発を試みたところで、市民をその気にさせ、行動に移させることは至難の業です。そこで私たちは「子ども」に着目しました。「自分のため」では動かない大人たちも、自分の大切な「子どものため」であればその重い腰が上がるのではないでしょうか。

##### ②大事なのは、やってみよう！と思わせる「気軽さ」

子育て世代への配慮から主に土日祝日を利用して事業を実施します。そして、農作物の植え付けや収穫など、農業における「おいしいところ」を親子ベジ活クラブ会員（以下、会員）に提供します。また、農業未経験者でも確実に、安全に作業できるように本業の農家の指導のもとで作業してもらいます。

##### ③新しい“クラブ活動”としての可能性を提案

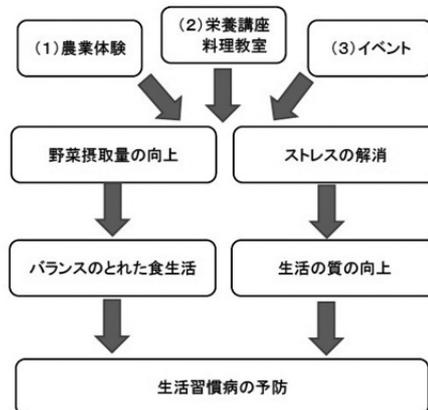
私たちは、野菜について理解でき、また親子で楽しめる年代である小学生の子どもをもつ子育て世代

にアプローチし、子どものクラブ活動の選択肢の1つとして提案していきます。

#### (4) 政策の概要

親子ベジ活クラブは、①農業体験、②栄養講座・料理教室、③イベントという3本柱で構成します。会員は、2年間、2か月に1回程度の頻度で事業に参加することで、総合的に食育を学びます。

図9：事業イメージ



##### ①農業体験

私たちは、ダイア4市域内で実際に農業を営んでいる数軒の農家（以下、協力農家）に取材しました。以下に示す概要は、協力農家からの意見・アドバイスを反映したものであり、実現可能性を踏まえた内容としました。

##### ■畑の提供

- 「農園利用方式」を利用
- 利用する畑の面積は1組2坪程度
- 畑の管理は協力農家が実施

農作物を育てる畑は「農園利用方式」により提供を受けることとし、ダイア4市の農家から「協力農家」を募ります。借りる畑の面積及び実際に育てる農作物は、協力農家と事前に調整を行い決定します。

##### ■会員が行う作業

- 重労働なし！「気軽さ」を重視
- 本格的な農作業ではなく、協力農家の指導のもとで主に「農作物の植え付け」、「手入れ」、「収穫」を行います。

## ■会員のカリキュラム

- 2年間の段階的なカリキュラム設定
- 各市15組程度受入れ

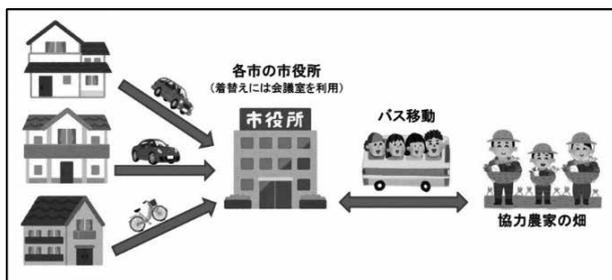
1年目は農作物を育てたことのない人に土や野菜に触れるきっかけを与えます。2年目はダイア4市で多くの農家が生産しているサトイモやコマツナ等の地元根付いている野菜を作ります。

## ■行政（事務局）のバックアップ体制

- 会員の畑へのアクセス、着替えへの配慮
- 会員が使う道具の管理
- 協力農家に対する報償

交通の利便性を図るため、会員をそれぞれの市役所に集め、着替え場所を提供します。さらに、庁用バス等で協力農家の畑へ送迎します。作業で使用する道具は、協力農家から借用するもののほか、各市でも手配し畑に持っていきます。

図10：協力農家の畑への移動イメージ



## ②栄養講座・料理教室 ～栄養と地域の食文化に関する知識を習得！～

栄養講座・郷土料理や時短料理を学ぶ教室も併せて開催し、会員の食習慣の改善を支援していきます。

## ③イベント企画

各事業の実施にあたり、行政の持つ資源、人材を活かしながらサポートしていきます。また、ダイア4市の持つ資源を最大限に活用し、バラエティ豊かで彩りのある内容とします。

## ■試食会、グルメイベント

会員が実際に収穫した農作物を食べる機会を設けます。河原でのバーベキュー等、ダイア4市ならではのロケーションを活用しながら、楽しく美味しく

野菜を食べてもらいます。参加者は会員に限定し、会員同士の交流を図ります。

## ■地元野菜直売！ダイヤモンド・マルシェ

出店条件を「親子ベジ活クラブへの協力農家」と限定する地元農作物の大規模直売会を実施することで協力農家に利益を出してもらい、協力農家が事業に参加するメリットへとつなげます。



## ■会員情報ステーション

会員同士の情報共有を図るために、市事務局がフェイスブックなどのSNSや市公式ホームページを活用した「会員情報ステーション」を運営します。

会員情報ステーションでは、会員から寄せられる情報や事務局からの活動報告、農作物の成長記録等を記事として掲載し、市民が閲覧できる仕組みにします。また、非会員でも閲覧できるため、当事業のプロモーション効果も期待でき、新規会員の獲得にもつながります。

## (5) 効果測定

事業内で3回程度、会員にアンケートを実施し、野菜摂取量の状況、地元産農作物への理解度などを調査します。

## (6) 将来の展望

### ①親子ベジ活クラブの事業拡大

#### ■協力農家の増加で事業の拡大

親子ベジ活クラブがもたらすメリットの1つとして耕作放棄地の再利用があります。農家の悩みの種である耕作放棄地を行政の事業で活用することができれば、農家が事業に協力するメリットにつながります。また、協力農家の増加に伴い、対象年代の制限をなくし、全市民対象とすることも可能と考えます。

### ■SNS、口コミ効果で会員増加

会員情報ステーションにより、クラブの活動内容が会員以外の市民にも伝わる仕組みをとります。

また、保護者間の「口コミ」効果にも期待しています。「ママ友」の間で情報が共有されることで、当事業も口コミにより周知され、より多くの子育て世代に波及していくことを期待します。

### ■クラブ卒業会員に対するフォローの充実

農業体験での経験から家庭菜園にも興味をもってもらえるよう「家庭菜園講座」等を開催するなど、卒業会員が引き続き日常的に楽しく野菜摂取に取り組める仕組みを整えます。

### ②非会員、健康無関心層へのアプローチ

#### ■埼玉西武ライオンズと連携した働きかけ

ダイア4市が埼玉西武ライオンズと締結している「連携協力に関する基本協定」を活用し、健康無関心層への働きかけを行います。埼玉西武ライオンズの公式試合等で、親子ベジ活クラブや野菜摂取量向上に関する啓発活動を実施することにより、市民の野菜への関心を高めます。

### ③地域の中の1つのコミュニティへ

#### ■「地域ベジ活サークル」の発足

2年間の親子ベジ活クラブでの活動を通して得た知識や経験の地域での共有・拡大を促すため「地域ベジ活サークル」の発足を後押しします。これは親子ベジ活クラブの卒業生たちが、行政の手を離れて自分たちで自主的に活動していくサークルで、地域の人々を巻き込んで活動していきます。

#### ■行政がサークルの発足、活動をサポート

地域ベジ活サークルの活動場所として各市の公民館等を提供し、1つのまちづくり活動として活動してもらいます。また、市の広報媒体を活用してサークルへの参加者募集記事の掲載や活動の情報発信等のバックアップをしていきます。

### ■地域ベジ活サークルがもたらす可能性

親子ベジ活クラブでの活動を地域に還元していくことで、会員だけではなく地域住民を巻き込んだ野菜摂取に対する意識の向上が見込めます。また、人との交流が新たに生まれ、地域の中で楽しみながら健康になっていく人が増えることを期待します。

## 4 期待する効果

### (1) 20～40代の男女を中心とした野菜摂取に対する意識の向上

当事業の目玉は、農作業を直接的に体験できることにあります。自分たちで収穫した野菜が食卓に並ぶことで、野菜の摂取量が増加することはもちろんですが、最も重視していることは、野菜に対する意識の向上です。自分で育てたという実感は、最高の調味料になります。また、「会員情報ステーション」の活用や埼玉西武ライオンズとの連携事業により非会員や健康無関心層に向けても積極的に野菜摂取についての啓発をはたらきかけていくと同時に、「地域ベジ活サークル」の活動をサポートすることで地域からも野菜摂取量の向上を図っていきます。

### (2) ストレス解消の機会を提供

親子ベジ活クラブの目的として、人と人との結びつきを作り出す「コミュニティの形成」があります。

親子ベジ活クラブは、事業自体がひとつの「クラブ活動」であり、コミュニティです。各種講座やイベントを通して、同じ時間を共有する時間を設けることで、会員同士の交流を促します。また、親子ベジ活クラブを修了した後も、仕事や育児の悩みを共有する場となりうるのではないかと考えています。さらに、「地域ベジ活サークル」により地域での新たなコミュニティの形成にも一役買うことになるでしょう。